

令和3年度第1回千葉市水道事業運営協議会議事録

水道局水道総務課

1 日時

令和3年8月18日（水）午後2時00分～午後3時40分

2 場所

千葉市役所 千葉市議事堂棟 第2委員会室

3 出席者

（委員）杉谷委員、大道委員、青山委員、伊藤委員、椛澤委員、植草委員、川村委員、
白鳥委員、中島委員、渡辺委員、山岸委員、鎗田委員

（事務局）野村水道局長、若菜水道局次長、大木水道総務課長、武田水道事業事務所長、
夏目水道総務課長補佐、宮本水道事業事務所長補佐、
千國水道事業事務所主査、高瀬水道事業事務所主査、笠井水道総務課主査、
中村主任技師、今井主任技師、工藤主任主事

4 傍聴人

1人

5 議題

- （1）会長及び副会長の選出について
- （2）千葉市の水道事業について
- （3）統合・広域化に向けた千葉県との協議状況について
- （4）千葉市水道事業中期経営計画の評価について

6 配付資料

- （1）資料1 千葉市の水道事業について
- （2）資料2 統合・広域化に向けた千葉県との協議状況について
- （3）資料3 千葉市水道事業中期経営計画の評価について

7 議事の概要

(1) 会長の選出等

委員の互選により、川村委員が会長に、大道委員が副会長に選出された。

(2) 千葉市の水道事業について

千葉市の水道事業について、説明を行った。

(3) 統合・広域化に向けた千葉県との協議状況

統合・広域化に向けた千葉県との協議状況について、報告を行った。

(4) 千葉市水道事業中期経営計画の評価

千葉市水道事業中期経営計画の評価について、説明を行った。

【議題「千葉市の水道事業について」の質疑応答】

<青山委員>

水道事業の令和2年度決算見込における新型コロナウイルス感染症の影響がどのくらいあったのか、お聞かせ願いたい。

<大木水道総務課長>

水道事業の令和2年度決算見込における新型コロナウイルスの影響は、特に水量に影響が出ている。令和2年度決算見込の水量は令和元年度と比較して全体で3%の増となり、約1,700万円の増収となった。内訳をみると、家庭用の水量が5%の増、業務用の水量が二桁の減となっている。業務用の水量は減少しているものの、全体で見ると水量は家庭用が大きな割合を占めているため、全体の水量の増加に繋がった。家庭用が増加した理由については、新しい生活様式が浸透したことによる在宅勤務の増加、手洗い等の機会の増加等が考えられる。

<青山委員>

若葉区御殿町の配水管整備が完了となったが、その後の水道普及状況について教えていただきたい。

<武田水道事業事務所長>

若葉区御殿町については、令和元年度で配水管の整備が完了し、要望のあった54件全てが給水への接続を完了している。

<伊藤委員>

千葉市の有収水量密度について、仮にこれが全国平均を上回った場合、千葉市の水道事業の経営がどのように変化するのか教えてほしい。

<大木水道総務課長>

有収水量密度は、人口が多い地域を給水区域としているか否かで数字が決まってしまう。千葉市水道事業としては今後事業環境が変わるということは考えておらず、試算を行っていないため答えられない。

<伊藤委員>

事業統合を行うことによって、千葉市水道事業の構造的な赤字がどうなっていくのかお聞かせ願いたい。

<大木水道総務課長>

事業統合を行っても、現状の市営水道の給水エリアが構造的な赤字を抱えている事業エリアであるということに変わりはなく、根本的に事業環境が変わるということは考えていない。ただその中でも、事業統合によって行政の重複を是正し、全体の行政コストを削減し、最終的に住民負担の軽減に繋がるのが重要だと考えている。

<伊藤委員>

給水のコストについて、もう少し具体的に説明をお願いしたい。また、今後コストを削減していく方法について教えていただきたい。

<大木水道総務課長>

コストの構造として、受水費と減価償却費が大部分を占めている。受水費については、千葉県と価格交渉は行っているが、抜本的な引き下げというような成果は得られていない。減価償却費については、施設を作れば自動的に発生するものであるため、この費用の削減も厳しい。千葉市水道事業としては、可能な限りのコスト削減策は取っているが、それにも限界があるというのが現状である。

<伊藤委員>

千葉県との事業統合については、メリットとデメリットを把握した上で議論することが重要だと考えている。当該議題の資料ではメリットは記載されているが、デメリットが読み取り

づらい。

<野村水道局長>

伊藤委員のご指摘のとおり、統合により経営面がどのように改善していくか、具体的な成果を示すことは現時点においてはできていない。また事業統合のデメリットとして、水道料金が上がるのではないかという点についての懸念も確かにある。一方でメリットは、安定した上水道の供給、市民サービスの向上はもちろんのこと、その他に災害対応についても大きなメリットがあると考えている。令和元年度の秋台風時では、市水供給エリア内において大きな災害に見舞われ、災害対応としてピンポイント給水などのプッシュ型支援を実施した。しかしながら、対応できる職員数に限りがあり、効率的な支援ができず、対応に苦慮した現実がある。県水道局という大規模事業体と統合することにより、広域的かつ効率的な対応が図れる点も大きなメリットとして捉えている。引き続き、千葉県に対し事業統合を粘り強く求めていくので、ご支援をお願いしたい。

<椛澤委員>

受水費について、費用削減に対するどのような交渉を行っているのか、またその成果について教えていただきたい。

<大木水道総務課長>

受水費の単価については、進捗がない状況であるが、基本料金について費用削減の交渉を行っている。基本料金は、千葉県からもらう水の最大水量で決まるため、千葉市が所有する自主水源(井戸)や配水池を活用し極力最大水量を抑え、基本料金を下げる努力を行ってきた。その結果、年間数千万円単位の削減を、ここ数年継続して実現している。

<椛澤委員>

最大水量の話で言うと、近年、シャワー等の器具が節水効率を上げていると思われるが、そのような器具の普及は受水費の低減に有効なのか教えていただきたい。

<武田水道事業事務所長>

受水費の低減策としては、配水池に水を溜めて、最大水量を送らないようにする形をとっているため、個人のシャワー等の節水による受水費の影響については、効果は少ないと考えている。

< 梶澤委員 >

施設の耐震化について、千葉県と千葉市で進捗の状況に違いはあるのか。

< 武田水道事業事務所長 >

令和元年度時点で、千葉市の耐震化率が43%、千葉県の耐震化率が24%となっている。

千葉市は若葉区の施設が比較的新しいという事情もあり、耐震化が進んでいる。

【議題「統合・広域化に向けた千葉県との協議状況について」の質疑応答】

< 青山委員 >

千葉県との事業統合の協議について、今後どのように進めていくのかスケジュールを教えてください。

< 大木水道総務課長 >

事業統合について、今回の連携推進会議の場で県側からの明言はなかった。本市としては、事業統合を求めていく方針に変わりはなく、今後もあらゆる機会を通じて求めていく。

一方で、連携推進会議の結果、まず最初に検討することとして二つの宿題が出たため、県と市で協力して対応していきたいと考えている。

一つ目の宿題は事業統合した場合の効果額の精査、二つ目は実現可能な広域連携案の策定で、既に県との協議は開始したところである。

次回の協議は年内を想定しており、両首長に報告できるよう、県との協議を進めていきたいと考えている。

< 青山委員 >

県と協議した結果について本運営協議会でも報告していただくようお願いしたい。本運営協議会の意向を今後の取組み等にも反映していただきたいので、要望として申し上げる。

< 白鳥委員 >

事業統合することにより、経営上どのようなことが改善されていくのか、教えていただきたい。

< 大木水道総務課長 >

事業統合による改善点としては、県と市で重複しているコストを取ることで行政コストが最

小化すること、さらに、市民サービスの一元化や災害対応余力の向上などがある。

その効果額、具体的な成果等は今後県との間でも共通認識を持てるよう進めていきたいと考えている。

< 梶澤委員 >

全国的に水道事業の統廃合は課題となっていると思うが、統合を行って成功した例はあるのか教えていただきたい。

< 大木水道総務課長 >

水道事業の広域化が法律の根拠を持って進められるようになったのは平成30年の水道法改正以降であり、成功した例は把握していないが、統合が極端に進捗したケースとして、香川県の事例が挙げられる。

香川県は水道法改正以前から水道事業の全県統一に取り組んでおり、平成30年に実現となった。実現からそれほど時間が経過していないため改革は途上であり、まだ見えてない効果がこれから発現していくと考えられるが、浄水場等の施設の集約による費用の削減や国からの補助金の交付などにより効果が出てきている。

< 大道副会長 >

事業統合の協議について、県の窓口はどこが担当しているのか教えていただきたい。

< 大木水道総務課長 >

千葉県において、県内の水運用を統括し企画部門である総合企画部水政課と、実際に水を配水している千葉県企業局（県営水道）があり、直接の統合相手は企業局であるが、企画部門の水政課を窓口として協議を行っている。

【議題「千葉市水道事業中期経営計画の評価について」の質疑応答】

< 青山委員 >

中期経営計画で御殿町と下田町の配水管の整備を行っているが、将来に積み残しになっている若葉区における上水道の課題等があれば教えてほしい。

< 武田水道事業事務所長 >

まず、下田町については中長期経営計画で引き続き配水管の整備を行っていく。

今後の課題としては、更科浄水場や千葉リサーチパーク浄水場の機械電気設備の更新を行っていく必要があるため、老朽化対策が課題となると考えている。中長期経営計画において、高根給水場への機能集約を含めた運用方針の検討を行っていく予定である。